

# 医学部合格のために必要な学力と人間性を育む教育とは 「志力」をもって未来を創る女性を

東京の進学校として近年、台頭著しい「豊島岡女子学園中学校・高等学校」(東京都豊島区)。2022年度から完全中高一貫になり、

全員が高3まで理科と数学を学ぶ新体制をとっている。卒業生の6人に1人が医学部進学し、私立医学部の合格実績は全国でもトップレベル。

一方の「医系専門予備校 メディカルラボ」は全国の医系専門予備校の中でも最も多い医学部合格者を輩出している。

全ての授業をプロ講師による1対1授業で行う徹底した指導体制で、2022年度入試では延べ1270名が医学部に合格し8年連続で合格者数No.1を誇る。

その豊島岡女子学園の竹鼻志乃校長と医系専門予備校「メディカルラボ」本部教務統括、可児良友氏に高い医学部合格実績につながっている教育の取り組みについて語っていただいた。

## 医系専門予備校 メディカルラボ 可児良友 本部教務統括

平成3年から大手予備校で受験生を指導。  
同18年のメディカルラボ開校に責任者として携わり、  
現在は本部教務統括を務める。  
医学部進学をテーマに各地で数多くの講演を行っている。



▲竹鼻志乃校長と可児良友氏

豊島岡女子学園中学校・高等学校  
竹鼻志乃 校長

1966年生まれ。豊島岡女子学園高等学校を経て、  
筑波大学第一学群生物学類を卒業。  
味の素株式会社中央研究所に4年間勤務後、  
1993年同研究所に理科教員(生物)として着任。  
2011年教頭へ、13年より校長に。  
同校130年の歴史の中で初の卒業生校長。

### ◆生徒の志と希望に応える教育を

——まず、豊島岡女子学園ではどんな教育を目指していらっしゃるのですか？

竹鼻志乃校長 特に医学部進学や理数系に重点を置いているわけではありません。生徒一人一人が志をもち、志に向けて諦めずに挑戦する気持ちと実践的な学力を育てる教育をしたいと願っています。まずは生徒に視野を広げ、自分の将来を考えるような機会を用意します。在学時だけではなく、卒業後も成長を続けられる力を養うために、全生徒が高三まで理数科目を学ぶカリキュラムを組んでいます。

可児良友氏 近年の進学実績には目を見張るものがあります。独自の教育内容としてどんなことをされていますか。

竹鼻 本校の伝統ともいえる「運針」という取り組みがあります。毎朝8時15分からの5分間、1メートルの白布にひたすら赤い糸を通していきます。裁縫専門学校が前身ですので、戦後まもなくから生徒たちの集中力を養うために続けています。いわば「5分間の禅」です。短い時間でも、無心になると、基礎の大切さを知ること、努力の積み重ねがいかに大切なものであるか、体得することができます。

可児 そうですね。なによりも地道に努力を重ねることは大切です。学問、研究、スポーツ、仕事などすべてにおいて基礎基本をしっかりと身に付けなくてなりません。医学部受験でも合格する生徒たちはしっかりとした基礎が身についていますね。入試で求められる思考力は基礎を応用して考える力です。基礎を大切にし、努力を積み重ねられることは医学部受験でも強みになりますね。

竹鼻 また校訓として「道義実践」「勤勉努力」「二能専念」を掲げています。人間には必ずその人特有の才能「一能」があります。そんな生徒たちの優れた才能を発見し、育成し、磨かせることこそが私たちの役割だと思っています。

STEAMとは科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術(Art)、数学(Mathematics)の頭文字をつなげた言葉です。これら5つの領域を総合的かつ教科横断的に学ぶことで実社会での課題解決に生かしていく力が育成されます。

本校ではT(豊島岡)ーSTEAMと呼び、中学生では総合的な学習や特別学習として「モノづくり」に取り組んでいます。希望制で挑戦性の高い「モノづくり」にも取り組んできた歴史があり、2018年には文部科学省のスーパー・サイエンスハイスクール(SSH)に指定されました。

教科学習は、正解だけを求めていく傾向になりがちです。T-STEAM教育では、積極的に失敗を重ね、その失敗から得られる経験を大事にしています。正解だけを学ぶ学習よりも価値のある学びです。生徒たちは試行錯誤を重ねながらチームで課題に取り組み、一つの目標に向かって努力します。

可児 試行錯誤を重ねる学びのプログラムはすばらしい試みですね。この取り組みは結果として、医学部入試に求められる能力を身につけさせているのではないかと思います。試行錯誤を重ねることが、「思考力・判断力」を伸ばします。私たちの予備校でも生徒自身が試行錯誤しながら考える時間を大切にしながら「思考力・判断力」を伸ばすために、生徒と講師が1対1の対話型授業を行っています。自分とは異なる考え方を持つ人と協働して学ぶ経験は生徒たちの考える力を伸ばしますね。

竹鼻 モノづくりは一人ではできません。他の人からさまざまな発想や視点や解決方法を学ぶことが求められます。そこで男子校を含む近隣の他校や大学にも参加してもらっています。昨年度は「フローティング」の洋上発電をイメージして、水上で波の影響を受けないような仕組みを持つた機構の作成」にも挑戦しました。コロナ禍で他校からの参加を見送りましたが、中1から高2までの37チーム、109名がエンブリーしました。生徒たちは波の上で安定姿勢を保つ構造物を作り、どれだけ重りを落とさずに入れられるかを懸命に競っていました。

◆「探究力」「思考力」の育成を

——T-STEAMという「探究力」育成のプログ



豊島岡女子学園中学校・高等学校

——今年度から高校入学時点での生徒募集を停止し、完全中高一貫化されました。その狙いは。

竹鼻 これまででは中学から内部進学する生徒と高校から入学してくる外部進学の生徒(高入生)は別々にクラス編成して、3年生段階で混合する併設型で高一貫校でした。私自身も高入生だったので複雑な

気持ちもありますが、完全中高一貫化でより深い学びを提供することができるようになります。学習進度を合のせるものに替わる時間を使います。

用を含むたとえば足踏みの時間もなくせずにグループによる探究活動を中学段階から始めることが可能となり、探究力の育成もさらに高められます。

新体制で学んだ生徒たちは、大学入学共通テストが変わっても問題なく対応できると考えています。可児 困られ、生徒の学力伸長をより促進することになりますね。私たちもカリキュラムの効率化は非常に重要なポイントだと考えています。生徒たちの学力状況にきちんと応える教育が求められていますね。

◆学びへの意欲を高めるために

——生徒たち  
が学び続ける  
モチベーション(目的意識)  
をめぐつては

竹鼻　入学時  
から「医者にな  
りたい」という  
生徒は一定数  
いますが、ほと  
んどは将来の  
いかがですか。

職業について  
なにも決めて  
いません。学び  
において一番  
大切なのは、先  
輩後輩のつな  
がり、特に「憧

この先輩の存在ではないでしょうか。本校では中1から高3まで全員がクラブ活動に参加します。その目的は、いい成績を残すことだけではなく、先輩との付き合い方、後輩の指導の仕方などタテの関係も学ぶことです。生徒たちは「先輩よりいいものを目指したい」と熱心で、共に困難を乗り越えた経験からか、クラブ活動で得た友達とはとくに絆が強くなるようです。

さらに中2の夏休みに、生徒がOGを訪ねる『卒業生インタビュー』を実施しています。訪ねる卒業生は生徒自身で選ぶことができるのですが、まったく未知の職業を見学に行く子もいれば、医師志望で診療科まで絞つて訪ねる子もあります。

卒業生にとつても、自らの職業観を見直すきっかけになり、喜んでもらっています。インタビューの結果は、休み明けの9月にまとめて共有します。こうした経験を通して、少しずつ未来の自分を想像していければいいですね。

可児　近年の医学部入試では必ず面接試験があり、学力の高さはもとより、志望動機や熱意が評価されています。私たちの予備校でも教科の学習とは別に、面接・小論文対策の授業があります。そこでは「自分はなぜ医師になりたいのか」「医師としてどう社会に貢献するのか」といったテーマで本人にじっくりと考えてもらう時間を設けています。さらに海外の貧しい医療現場でボランティアとして頑張っている人など、日本国内だけでなく、世界で活躍している医療人の話を聞いて夢をもたせたいと考えています。

竹鼻　医師には、将来にわたって社会から求められていきます。医学部進学は、本人よりも親のほうが熱心なケースが多いのですが、親の希望や経験をただ子どもに押し付けるだけではうまくいかない印象ですね。医師資格を取得して自分で事業を起こしたいと考えている生徒もいますよ。

◆コロナ禍で知った対面授業の大切さ

——長きにわたるコロナ禍で経験したことは、  
竹鼻 コロナの感染対策で急ぎよオンライン授業  
の導入が迫られました。そうはいつても各家庭のオ  
ンライン環境は整ってはいません。授業内容を短い  
動画にして生徒にオンラインで見るようになした  
ところ、生徒は何度でも見直すことができると好評  
でした。しかし、学習内容が定着しているかどうか、  
確認テストを実施してみると期待とは異なつてい  
ました。やはり、対面授業で理解できていないこ  
ろをきちんと教えてなりません。

全国の新型コロナ感染者がピークを迎えていた  
ときも、教員も生徒・ご家庭も協力して、クラスター  
なども出さずに対面授業を続けました。学校見学会等  
に来た方には、オンライン授業にしていないのかと  
驚かれました。互いに学び合うには、やはり同じ教  
室にいることが重要です。学校は勉強だけを学ぶ場  
ではありません。休み時間の会話や放課後のクラブ活  
動も欠かせない学びだと思います。人間関係など難  
しく、思い通りにならないことも学ぶところです。

可児 そうですね、対面授業でないと生徒の理解度  
は測れませんし、人間関係も希薄になってしまいま  
す。対面授業にこだわることは医学部入試対策とし  
ても大切なと思います。教科の内容の理解と定着へ  
の効果は勿論のこと、面接試験への対応力も鍛えら  
れます。面接試験では十分に自分の思いを伝えなく  
てはなりません。どのような質問にも自分なりに工  
夫して、しっかりと表現することが求められています。  
す。オンラインという薄い人間関係ではそれはな  
かなか学ぶことができませんね。顔を突き合わせ、  
しっかりと向き合って話すことが大事です。私たち  
も1対1授業にすることで、対面の双方向性を大切  
にし、こだわりを持って取り組んでいます。

「女子枠」設置が話題になり、科学分野での女性への期待が注目されていますが。  
竹鼻 本校を卒業した東京工業大の学生に聞くと、「女子枠」を設けなくとも自力で入学できる女子学生を大切に育ててほしいと言っています。女子学生を集めなければ「女子枠」の導入よりも、卒業後の大学院進学や社会での活躍につながる魅力的なキャリアパスを示す工夫をしたほうがいいと個人的には思います。

可児 東京工業大と言えば、東京医科歯科大との統合にも注目です。高度情報社会に向けて社会が変化していくなかで、大学のイメージも変えていきたいのでしょうか。理工学系に女性が多く増えることで研究の幅が広がり、多様性やより広い視野での研究を期待しているようです。

竹鼻 女性が社会で、自分らしく活躍できる場が広がっていくといふと思います。自分のやりたいことを見つけ、貪欲に学び、どのような状況でも諦めずに自分の未来を選択していく力ををつけさせたいですね。

——最後に若い人たちへのメッセージを。

竹鼻 私たちは「志力」を持つて未来を創る女性を育てたいと願っています。「志力」とは「志」を実現していく力。具体的には科学的思考で課題解決できる力、挑戦する力、世界で活躍できる力の三つです。ぜひ自分が未来、さらにより良い社会、より良い未来を創るためにそれぞれの個性に磨きをかけてほしいですね。

可児 医学部を目指す生徒たちも、自身が社会や世界にどのように貢献していくのかという目的意識を見失つてはいけません。「志力」が本当に大切だと思います。

本日はとても貴重なお話をありがとうございました。  
した。私たちも医師を目指し、たゆまず努力してい  
る若者たちが夢をかなえられるようにさらに指導

◆高度情報社会と女子教育をめぐつて

——近年、女子大学の工学部新設や東京工業大の